



市民協働水田での作業の様子

(特非) 河北潟湖沼研究所

カーボン・オフセットの活用を展望した協働による水辺と農地の保全活動の推進

一般助成

3年目

実践

水辺保全活動の年間参加者数
(助成前は年間100名ほど) **300人/年**
(3年間の平均)

協働による減農薬、
無農薬栽培の契約農家

8軒

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

石川県河北潟地域の水辺や農地で、多様な野生生物とその生息場所が減少していること。実施している保全活動について、農家以外の周辺住人の参加が少ないこと。

目標

●水辺や農地保全活動への関心を高め、参加者を年間50名増やす。●活動継続のため、活動の原資を得られる仕組みを作る。●継続している水辺の外来植物除去活動でJクレジット制度へプロジェクト登録をする。

活動内容

●市民参加による協働水辺保全活動の実践、ヨシ原保全のためのヨシ刈り・ヨシ舟作りと乗船体験、水辺の外来植物除去活動、協働による無農薬の米作り、農家と協働による周辺圃場で減農薬栽培を広げる取り組み等の実施。●上記活動から生まれた農産物や堆肥の普及活動。●地域の多様な主体との連携を作るための活動、シンポジウム実施。●カーボン・オフセットに係る条件や活動による環境改善効果等の調査・研究。



多様な人が参加した水辺の
外来植物除去活動

達成できなかったこと

除去した外来植物の堆肥化によりJクレジット制度へのプロジェクト登録を目指したが、現時点で実施している活動規模では難しいとのことから登録申請にはいたらなかった。

今後の展望

水辺や農地の保全活動は継続実施、Jクレジットのプロジェクトについては企業、行政等との連携を模索する。

成果と工夫したポイント



成果

- ・水辺保全活動参加者が3年間で延べ900名となり、市民協働の米栽培は3年間で延べ416人が作業に参加、市民の関心を高められた。
- ・農家と協働の減農薬・無農薬栽培圃場が28年は21,149㎡となった。

工夫

- ・親子向けの広報や都市部で河北潟農産物をPRするマルシェを61回実施する等、多様な層へPRした。